施政方針 「子育ての喜びが見えるまち」の実現へ

施政方針全文

議会で施政方針を述べる守本市長

2月21日に招集された第90回市議会定例会において、守本市長が市政運営の基本方針や主要施策をまとめた施政方針を述べました。その概要をお知らせします。なお、施政方針の全文と予算の詳細は市ホームページをご覧ください。（予算と主要事業の記事は4～7頁）

【市政理念】

本市は、令和という時代に求められる地域社会を構築する非常に高い可能性を持つ地域です。若者たちがここで挑戦し、家庭を持ち、子どもを育てたいと思う地域を構築したいと考えています。これを実現するためには、挑戦するための産業基盤を整えていることをはじめ、子育て環境が整備されていること、教育の質を高めることは当然ですが、地域住民が子育て家庭の課題を理解し、応援すること、それから産業界が子育てしやすい働き方に協力的であることが大切であり、何よりも地域全体が若者のチャレンジや子育てをサポートし、見守る地域社会であることが必要です。このような地域、すなわち「子育ての喜びが見えるまち」の実現に向け、政策の柱である「五つの行動」をさらに発展し、本格稼働させてまいります。

【五つの行動】

❶超高齢化社会の克服

国では、少子高齢化を克服するため、全世代型社会保障の議論が進んでいます。本市では全国に先駆け、シニア世代がこれまで培ってきた経験やスキルを活かし、人手不足で悩む様々な分野で仕事や社会貢献活動を継続し、健康寿命の伸長や地域の人手不足の解消につなげる「高齢者等元気活躍推進事業」に取り組んでいます。

また、交通難民が社会問題となっています。歩いて暮らせるまちづくりの実現に向け、地域公共交通の充実に加え、身近な市民交流センターで市役所の手続きを済ますことができるよう、業務の拡大を図ります。

❷子育て環境の向上と教育の充実

子育て・教育環境の充実は、若者に選ばれるまちになるための重要な要件と考えます。すべての子どもたちがやりたいことを見つけ、自ら努力し、成長し、能力を最大限伸ばしていく「学ぶ楽しさ日本一」の地域づくり、子どもたちが地域の人々に見守られて過ごす場の拡充、そして子育て世代の総合的な支援体制の三つの柱を打ち立て、さらなる子育て環境の向上と教育の充実に踏み出してまいります。

❸地域の資源を活かした地元産業の活性化

淡路島の産業面での最大の魅力は、食の素材の豊かさです。これらを素材のまま島外に出すのではなく、域内で料理・加工し、訪れるお客さまに提供したり、付加価値をつけて移出することが、地域の経済循環の拡大や農漁業の着実な発展につながります。淡路島の併せ持つ大きな魅力である豊かな観光資源、感動的な自然の神秘、深みのある歴史や文化を組み合わせ、京阪神からアクセスがしやすい地の利を生かしつつ、「食の島」づくりを進め、関連産業を巻き込みながら意欲ある若者たちが自分から仕事を作り出していける環境を築きます。

❹安全・安心のまちづくり

阪神・淡路大震災から25年が経過しました。この震災の貴重な教訓を生かし、日頃から迅速な避難を可能とする防災意識の向上をより一層図るとともに、避難行動をした後の避難所運営をはじめ避難後の生活水準の維持向上に配慮した対策にも力をいれてまいります。

また、カーブミラーや防犯灯の設置等による犯罪・交通事故の防止、安定的な水の供給体制の堅持、下水道等の生活環境の整備に加え、淡路島3市共同で可燃ごみ処理場の整備に向けた計画策定に着手します。

❺「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり

地域づくりで大切なことは、地域にあるものを生かして育てていくことにより、地域自身の活力が増し、担い手が成長することです。地域づくりは行政主導ではなく、地域の住民が自分で考え議論し、進めていくものでなければならないと考えています。地域と行政が協力し、対話をしながら地域の将来について共通の認識をもって一緒に取り組めるようなまちづくりを進めます。

また、市民ニーズに的確に対応するためには、市民の皆さまの声を聴き、それを政策に反映させ、その本質を市民の皆さまに伝えることができる力が必要です。コミュニケーションがとりやすい職場づくりを進め、仕事を通じ職員の成長につなげてまいります。

高齢者の社会参加促進に向けてシルバー人材センターと協定

協定書を取り交わした安田理事長（右）と守本市長

南あわじ市は2月26日、南あわじ市シルバー人材センターと「高齢者の社会参加促進に関する協定」を締結しました。

市では、高齢者等元気活躍推進事業に取り組んでおり、シニア世代が仕事や社会貢献活動を継続することによる健康寿命の伸長や人手不足の解消をめざしています。これまで「おもいやりポイント制度」による有償ボランティア活動や、「働くシニア応援プロジェクト」によりシニア人材が無理なく働ける職場環境づくりを促進してきました。

協定により、新規雇用分野の開拓や雇用促進イベントの実施など、高齢者が社会参加できる機会の拡大をめざします。

同センターの安田米次（よねつぐ）理事長は「600人の会員が力を発揮し、市民の皆さんのためになれば」と話しました。

担い手不足の解消に狩猟体験会を開催

シカやイノシシなどによる農作物への被害が増加する中、若者に狩猟に関する理解を深めてもらい、人材育成につなげようと、3月1日に狩猟体験会が行われました。

体験会には吉備国際大学の学生や狩猟免許の新規取得者ら6人が参加。指導役となった三原猟隊のメンバーとともに市内の山に入り、猟犬でシカを追い込み、猟銃を使って捕獲する様子などを見学しました。

参加した学生は「猟師がどうやって狩猟しているのか学べる良い機会になった」と話していました。

体験会は、市と猟友会が連携して、今後も開催する予定です。

三原猟隊のメンバーから説明を受ける参加者

淡路島サクラマス解禁 島内42店舗で82メニュー提供中

福良湾で養殖されている「淡路島サクラマス」を使ったオリジナル料理の提供が解禁され、2月28日に吉備国際大学南あわじ志知キャンパスでお披露目会が開催されました。

春の淡路島の新たなご当地グルメとして、オリジナル料理の開発が始まって4年目。今年は島内42店舗が参加し、82メニューが販売されています。

養殖に取り組む福良漁協の前田若男組合長は「料理も毎年進化しており、生産者としてうれしい。より多くの人にサクラマスを食べてほしい」と話していました。

メニューの提供は3月から5月末までの3カ月間。また、5月限定で淡路島サクラマス、しらす、サワラを使った「5月限定春スター丼」が12店舗で販売されます。

店舗や提供メニューの詳細は、二次元コードから淡路島サクラマス特設サイトをご覧ください。

淡路島サクラマスを使った彩り豊かな料理

オリジナル料理を披露する料理人ら

淡路島サクラマス特設サイト二次元コード

※本紙は3月19日時点での情報を掲載しています。新型コロナウイルス感染症の影響で紙面に掲載している行事等が中止や延期となる可能性がありますので、ご注意ください。